

## ネイティブ微生物プリンスクレオシドホスホリーゼ

*Cat. No. DIA-216*

*Lot. No. (See product label)*

### はじめに

#### □明

酵素学において、プリンスクレオシドホスホリーゼ (EC 2.4.2.1) は、次の化学反応を触媒する酵素です: プリンスクレオシド + リン酸  $\leftrightarrow$  プリン +  $\alpha$ -D-リボース 1-リン酸。したがって、この酵素の二つの基質はプリンスクレオシドとリン酸であり、二つの生成物はプリンと  $\alpha$ -D-リボース 1-リン酸です。この酵素は、糖転移酵素のファミリーに属し、特にペントシル転移酵素に分類されます。

#### 用途

この酵素は、キサンチンオキシダーゼおよびウリカーゼと結合した際に、無機リン、5'-ヌクレオチダーゼおよびアデノシンデアミナーゼの酵素的測定に有用です。

#### 別名

EC 2.4.2.1; イノシンホスホリーゼ; PNPase; PUNPI; PUNPII; イノシン-グアノシンホスホリーゼ; ヌクレオチドホスファターゼ; プリンデオキシヌクレオシドホスホリーゼ; プリンデオキシリボヌクレオシドホスホリーゼ; プリンスクレオシドホスホリーゼ; プリンリボヌクレオシドホスホリーゼ; プリンスクレオシド: リン酸リボシリルトランスフェラーゼ

### 製品情報

#### 由来

微生物

#### 外観

白色の非晶質粉末、凍結乾燥された

#### EC番号

EC 2.4.2.1

#### CAS登録番号

9030-21-1

#### 分子量

approx. 120 kDa

#### 活性

グレード III 15U/mg-固体以上

#### 混入物

カタラーゼ < 20% 5'-ヌクレオシダーゼ <  $1.0 \times 10^{-3}\%$  アデノシンデアミナーゼ <  $1.0 \times 10^{-3}\%$  ATPアーゼ <  $1.0 \times 10^{-2}\%$

#### 等電点

$4.1 \pm 0.1$

#### pH安定性

pH 6.0-9.0 (30°C, 16時間)

#### 最適pH

7.5-8.0

#### 熱安定性

60°C未満 (pH 7.7、30分)

#### 最適温度

65°C

#### ミカエリス定数

$6.4 \times 10^{-5}\text{M}$  (イノシン) 、 $3.2 \times 10^{-4}\text{M}$  (ピロリン酸)

#### 阻害剤

p-クロロ水銀ベンゾエート, SDS, Hg<sup>++</sup>, Ag<sup>+</sup>

#### 安定化剤

K-グルコン酸塩、マニトール、EDTA

### 保管・発送情報

#### 安定性

-20°Cで少なくとも12ヶ月間安定しています